

然ハ古人の言も按さるはあゝを信正又
曰る楢山を尾浦の平城といふ誤なりふ
上は少斗の清水有りて却に水のみなり
是を説之他頂より古手の証言遠いの証
もあり半くの言傳とりあつたれを城地の企
も有りーものつと云く尚邑梅平院ー井
あり夏月ハる余新是を汲よるに冬月又
三十二軒の湯屋毎日に軒に數十石を汲た
け井水を事なりーる楢山の清水も勢弱
ーとい（尤も夏月も少くハ湧きあり）

庭へ堀入水を造てなふ水勢も増りて今の
如きよりあゝさる屋さるや梅平院の井水
るりーはおよそ一日一夜を計て三石の
水を汲得ハ三石人の渴ハ補ふーさるや楠
正成平磯城へあつたれり付ハ云々人の
用水は一日に一本を宛て洗足馬の飼料火
矢を防の値とよ用ひしれり事平記評
判は妻ー正成ハ救ふを飲きしれり大
名なれたハる人こそ籠城をしれりこそ
武藏郡ハ郡縣のさるーて一玉のさるもあ